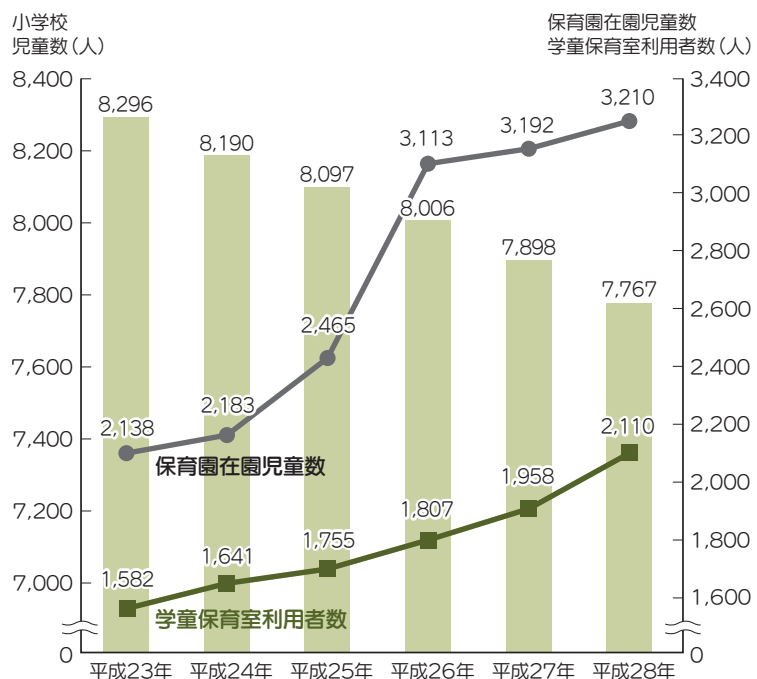


放課後の居場所

学童保育室整備中



特集 放課後の居場所



▲このグラフは平成23年～28年の5月1日時点での小学校児童数、保育園在園児童数、学童保育室利用者数の推移です。

小学校の児童数は年々減少していますが、学童保育室の利用者数は年々増加しています。また、将来、学童保育室を利用するであろう保育園在園児童数も年々増加しています。



今後の課題と対応

学童保育室は利用希望者の急増により、児童1人あたりの面積が狭くなってきています。また、今後も利用希望者の増加が見込まれるため、学童保育室が足りなくなる可能性も出てきます。

➡ 新たに学童保育室を建設するだけでなく、学校や幼稚園の余裕教室などを有効活用し、1人あたりの面積の確保や地域の需要に応じた施設の整備も進めています。

上のグラフの通り、市内全体の小学校児童数は減少傾向にありますが、学童保育室の利用児童は年々増え続けています。また、保育園在園児童数も年々増加しており、この傾向はしばらく続くと思われる。そして、保育園在園児童は何年かすると学童保育室に入室する可能性が高くなります。

利用希望者に対して、十分な学童保育室を整備していないと、小学校入学の段階で子どもが『待機児童』となってしまう可能性があります。

市では安心して子育てができるように、学童保育室の整備を進めています。

少子化とは相反する需要

施設」です。

以前であれば、放課後は家族が待っていて面倒を見てくれました。しかし、核家族化が進み、放課後は家に誰もいないという状況もあります。

学童保育室はそうした子どもたちのための『放課後の居場所』になっています。

学童保育室ってどんなところ？

そもそも、学童保育室とはどんな施設かご存じですか？

学童保育室とは、『小学校に通っている児童の保護者が、仕事や病気などで昼間家にいない場合に、放課後、適切な遊びや生活の場を確保して、児童の健全育成を図る

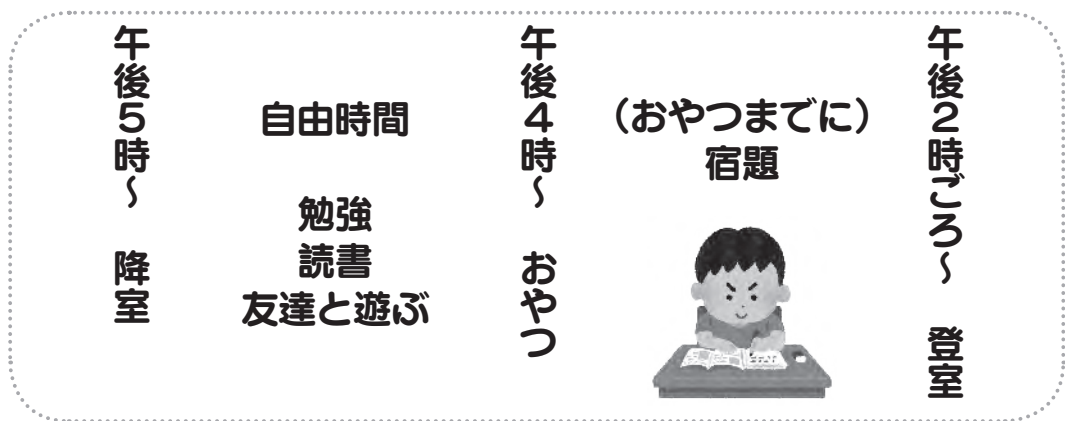
多様化するライフスタイル

人口減少と少子化。全国的に深刻な問題となっています。しかし、少子化といわれながらも、共働き世帯の増加や生活様式の変化などから保育園や学童保育室の需要は増加する一方です。

働くお父さん・お母さんの強い味方である『学童保育室』。深谷市には公立・私立合わせて40カ所あり、多くの児童が『放課後の居場所』として利用しています。

これからも、『まち』が発展していくためには、それを支えてくれる子どもたちが健やかに成長していくことが必要です。深谷の未来のためにも、一度考えてみませんか？

どこにあって、どんなことをしているの？
学童保育室ってどんな所？



身近にある学童保育室

利用している子どもにとっては身近な学童保育室ですが、あまり知る機会がありません。学童保育室は学校の敷地内や学校に隣接しているもののほかに、通学路の途中など子どもたちの身近にあります。

学童保育室の特長

放課後、子どもたちは自分で学童保育室へ通い、まずは宿題を済ませます。わからないときは周りの友達や上級生に教わります。また、自由時間には、読書や勉強、友達と遊びながら過ごします。季節ごとの行事も行われます。学童保育室は、学校とは異なり、同じ空間に他の学年の子もいるため、年上の子が年下の子の面倒を見ることや、兄弟・姉妹と一緒に過ごすこともあります。

放課後児童支援員に伺いました。

今は当たり前になった学童保育室ですが、深谷市では約40年前から始まっていたそうです。学童保育室は毎日通う所です。から子どもたちが「ただいま。」と帰ってきたら、私たちが「おかえり。」と迎え、子どもたちが第2の家と思って過ごせるように子どもたちと接しています。私たちは親と先生以外で、子どもたちと一番深く接する大人ですから日々の生活には気を付けています。



たけのご学童クラブ 放課後児童支援員 川田 富士子さん



▲登室直後。学年は違っても、一緒に仲良く過ごします

▲登室したら、まずは宿題。みんな騒がず、座って勉強中です

特集 放課後の居場所

平成28年度に整備した学童保育室



▲上柴東学童保育室(上柴東小学校敷地内に建設)



▲川本南学童保育室(川本南小学校の余裕教室を活用)



▲深谷西学童保育室(深谷西幼稚園の余裕教室を活用)

深谷の学童保育室 ココがすごい！

学童保育室の入室を希望する児童の入室率

100% ※平成28年5月1日時点での数字です。

学童保育室に入室を希望する児童の入室率。希望者が全員入室できる環境を整えています。

学童保育室の学校敷地内(隣接)整備率

100%

市内全19小学校の敷地内(隣接)に学童保育室を設置しています。

市内にある学童保育室の数

40室

公立24室、私立16室、併せて40室あります。平成28年5月1日現在、2,110人の児童が利用しています。

子どもたちが健やかに成長するために

平成27年度に本郷学童保育室および藤沢学童保育室の建設工事を行いました。

そして、28年度には上柴東学童保育室を建設し、川本南学童保育室、深谷西学童保育室を整備しました。

これらの整備により全小学校敷地内への学童保育室の整備が完了しました。

しかし、3ページでも触れたとおり、今後も学童保育の需要は増加傾向にありますので、引き続き整備を進めていきます。

29年度は学童需要の多い、榛沢学童保育室の建設工事と上柴西学童保育室および岡部西学童保育室の実施設計を行います。

特に岡部西学童保育室の整備が完了すると学童保育室の耐震化率が100%となります。

これからも、さらなる児童の安全と保護者の安心のため、学童保育室の環境を充実させていきます。